

第 101 回歴史探訪の会「鉄砲伝来から自転車産業の誕生を学ぶ」

日 時: 令和 7 年 9 月 17 日 (水曜)

場 所: 堺市・堺区

世話人: 森 尚夫

9 月中旬を過ぎても続く“猛暑”の日でしたが、特別参加の方 1 名を含めて 30 名の方に参加頂きました。天文 12 年(1543 年)に火縄銃が種子島に伝来すると、いち早くその製造技術が伝えられた堺はやがて火縄銃の一大生産地となりました。明治時代になると欧米から自転車が伝わり、その修理や部品の製造を支えたのが、鉄砲鍛冶の流れをくむ鍛冶職人だといわれており、これが堺の自転車産業の始まりです。

堺市ボランティアガイド協会のガイドさん 2 人の案内で、鉄砲鍛冶屋敷などゆかりの場所を訪ねました。鉄砲の製造で培った金属加工技術が、現在世界レベルで著名な「刃物」、「自転車」へと受け継がれていった事を学んだ一日でした。

コ ー ス: 南海電車・七道駅～放鳥銃定限記碑～鉄砲鍛冶屋敷～山口家住宅～堺伝承館～ザビエル公園(昼食)～妙国寺～シマノ自転車博物館 (解散)

放鳥銃定限記碑(ほうちょうじゅうていげんき)

南海電車・七道駅前すぐの場所の建つ記念碑で、堺で生産された銃器の試射場がこの辺りにあった事を伝えていいます。大正時代の大和川畔の工事の際に「放鳥銃定限記」と書かれた碑が見つかり、碑に銃の試射場の由来が記載されていました。碑は長い間ザビエル公園に保存されていましたが、平成 2 年(1990 年)に発見された場所に近い七道駅前の現在の地に移されました。



放鳥銃定限記碑



ガイドさん(左端)による説明

昔はこの近くまで海がせまっており、海に向けて銃を撃ち放っていました。

鉄砲鍛冶屋敷(井上家住宅)

全国で唯一残っている江戸時代の鉄砲鍛冶の住宅、及び作業場(鉄砲工場)で、令和 1 年～4 年にかけて保存修理がされ、堺市有形文化財に指定されています。天文 12 年(1543 年)に鉄砲が種子島に伝わり、堺は鉄砲の一大生産地となりましたが、井上家は江戸時代になってから鉄砲の生産・販売を始め、明治時代まで続きました。江戸時代には最大で 239 の藩と取引をしていた事が残された文書から判っています。

玄関を入ると右手に「仕上げ場」と呼ばれた場所があり、ここで鉄砲の最終組立を行っていました。今はここで井上家を紹介するビデオを観る事ができます。その奥には「みせの間」と呼ぶ、商談を行う場所や、住居スペースがあります。母屋から少し離れたところに蔵と鍛冶場が配置されていた事が調査で判明しています。鍛冶場では、鉄を鍛えて銃身を造る工程が紹介されています。

当時の鉄砲の生産は、井上家のような鉄砲鍛冶がすべての部品から生産を行っていた訳ではなく、銃床、“からくり”、など各部品を「下職」とよばれる、現代で言う「協力工場」で作り、自身で作る銃身と合せて最終組み立て、仕上げを行うと言う形態で行っていました。

(注)“からくり”とは、火縄銃の引き金を引くと、火縄が銃の火薬に点火する仕組みの事。



井上家(鉄砲鍛冶)屋敷正面



「みせの間」にある帳場



「絵符」(鉄砲を運ぶ際に荷物に添える札)
水戸藩、大岡越前守の名前もありました

尚、火縄銃の銃身は紙を丸めて筒を作るのと同じような方法で、板状に延ばした鉄を筒状に丸めて作られていました。初期(戦国時代)に作られた鉄砲は数回撃つと、使えなくなっていたとの事。時代が進み、江戸時代には2重巻き、3重巻きなど複数枚の鉄を巻き付けたものへと進化していきました。

山口家住宅

慶長20年(1615年)、大坂夏の陣の直後に建てられた江戸時代初期の町家で国の重要文化財に指定されています。広い土間、吹き抜け空間にかまどや土間に面した座敷、茶室、板間が配置されています。庭には樹齢200年のハゼの木を見る事ができます。



山口家住宅玄関



広い土間でガイドさんからの説明

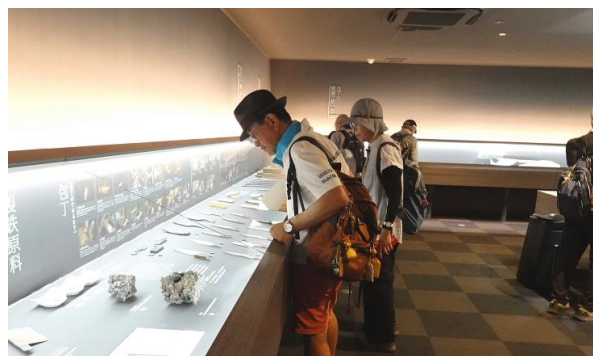
堺伝承館

堺の伝統産業を一堂に集めた施設で、1階では包丁、注染・和晒、線香、昆布製品、堺ゆかりの和菓子などが販売されています。又、2階では堺の伝統産業に関する歴史、製法、道具等が展示されています。堺の刃物の歴史や製造方法、つくる道具などを展示しています。なかでも、包丁の製造工程ごとの素材を用いて製作したシャンデリアが目目をひきます。

まだまだ暑い一日でしたので、涼しい館内は「砂漠のオアシス」のようでした。



シャンデリア「HIBANA」



堺の刃物に関する展示

「堺伝承館」から少し歩いた「ザビエル公園」で、昼食を摂りました。木陰ではチョッパリ秋の気配も・・・。



妙国寺

日蓮宗の寺院で、山号は廣普山。永禄 11 年(1568 年)に完成。

天正 10 年(1582 年)の本能寺の変の際、徳川家康はこの妙国寺に滞在しており、ここから伊賀を越えて三河に脱出をしました。

境内には「霊木 妙国寺のソテツ」がある。国の天然記念物で、推定樹齢 1,100 年と言われ、日本国内で最大級の大きなものです。天下統一へ勢力拡大中の織田信長が、妙国寺のソテツを安土城へ移植させました。しかし、毎夜「堺に帰りたい」と言う怪しげな声が安土城内に聞こえた為、怒った信長が家臣にソテツを切らせたところ、血の様な真っ赤な樹液が流れでた。さすがの信長もこれをみて妙国寺に戻す事にしたと云われています。

もう一つ、妙国寺にまつわる話として「堺事件」があります。

慶応 4 年(1868 年)2 月 15 日、フランス軍艦より水兵が上陸した際、堺警備隊の土佐藩士が応対したが、双方言葉が通じない事もあって、トラブルとなり両者銃撃応酬の末、フランス兵 11 名が死亡、国際問題となりました。この事件はフランスに賠償金を払うと共に、かかわった土佐藩士 20 名に切腹が命じられました。同年 2 月 23 日、妙国寺において日仏立会人の面前で堂々と割腹自刃しました。11 名が切腹を遂げ 12 人目にかかろうとした時、フランスの立会検視人もその凄絶の様を見るに忍びがたく、切腹は急遽中止とされ、残りの 9 名は土佐へ流刑となりました。

この 11 名の遺髪、辞世の句、切腹に使用された短刀、血の跡が残る三寶などの遺品や、呂宋助左衛門が持帰ったと伝わる壺などが資料館に展示されています。



妙国寺にて

シマノ自転車博物館

大仙公園内にあった旧・自転車博物館サイクルセンターを移転し、展示面積を約 3.5 倍に広げて令和、4 年にリニューアルオープンしました。自転車の歴史、世界最古級の自転車から個性豊かな自転車まで多種多様なものが展示されており、自転車部品の進化などの展示を楽しめます。

幼い頃に乘った事を思い出させる自転車や、菊の御紋入りの自転車(当時の皇太子、現在の上皇のご成婚祝いに献上された自転車)の展示があり、自転車の歴史と数十年前を思いだしたりもしました。



展示の一部と自転車の歴史と進化のビデオを観る参加者



シマノ自転車博物館 玄関ロビーで

写真は津垣さん、和住さんが撮影されたものを使用しました。ありがとうございました。